

教育長日記 (平成25年4月12日)

青い空に浮かぶ白い雲26

—入学式—

東大和市教育委員会 教育長 真如昌美



「野球やまとくん」
学校便り等でどうぞ
お使い下さい。(真如)

(今日の言葉)「難題突破 陰に腹心あり」

入学式

平成25年度東大和市立小学校、中学校の入学式が無事終わりました。

自分の体よりも大きく見えるランドセルを背負う小学1年生。

期待と不安の中で、目がモンシロチョウのようにあちこちに飛んでいきます。

大きめの制服、長めの袖から指先が少しだけ顔を出す中学1年生。

期待と不安の中で、まっすぐ前を見る目に澄みきった決意が感じられます。

いよいよ子供たちは、新しい一歩を踏み出しました。いま、幸せ色の春がやってきました。

「難題突破 陰に腹心あり」

昨年度、着任した時から始めた、私と阿部学校教育部長、小俣社会教育部長、石井参事兼指導室長の4人による毎朝の「経営ミーティング(おおよそ10分間)」、今年度から、隔週月曜日は、5階に席を置く課長・副参事(岩本課長、村上課長、小泉副参事、高橋副参事、小坂橋統括指導主事)を加えた9人による「拡大経営ミーティング」にすることにしました。

これには、組織内の意思疎通を強め、さらに連携・協力して仕事を進めようとするねらいがあります。それともう一つは、私の考え方や事業推進状況の評価を新鮮なうちに伝えたいという考えによるものです。

この「変化」を求めた改善策、成果が表れるように常に新鮮さと緊張感をもって進めています。

川底の砂をすくい「砂金」を探す

知・徳・体バランスよく育てながら「生きる力」を育てていく、これは今年示した教育経営の3本の矢のうちの最も大きく重い目標です。その中であって、「読み、書き、計算といった学力」の向上は、東大和市民の強い願いであり、生きていく上で確実に身につけておく必要のある力です。いったいどのように指導を進めていけば、その期待に応えられるのか、学校も教育委員会も毎日考え続けています。いいえ、この課題は、私たちだけではなく、日本全国で昔から考え続けられている大きな教育課題なのです。

ポイントは、改善策を「考える」という段階から「考え出したことを実践に移し、継続してみる」段階へと進めることができるかどうかという点です。取り組みがヒットするかどうかは、やってみなければ分かりません。しかし、躊躇する時間もないのです。なぜなら、目の前の子供たちは、あっという間に卒業してってしまうからです。

そんなことを考えながら、春3月、毎日届く新聞の折り込みを見ていて、「学習塾のPRチラシ」に目がとまりました。そこには、この春、学習塾を卒業した生徒たちの喜びの音がたくさん紹介されています。

「この中にひょっとすると『砂金』が見つかるかもしれない」、それから2週間「学習塾のPRチラシ」を集め、10社13枚122の声を拾い集めました。

その後、私は、川底の砂をすくい、そこから「砂金」を探す気持ちで、わくわくしながら分類を始めました。

さて、その結果は、次号に「つづく」